

## 森真人 教員

佐賀大学

理工学部理工学科卒

私が大学生生活で力を入れていたことは勉強、アルバイトそして遊びです。

私は理工学部 数理サイエンスコース出身ですが、今は教員をしています。教育学部ではない理由としては純粋に数学を学びたいと考えていたからです。実際に進学してみると抽象的で難しい内容ばかりでした。併せて教職を目指す学生向けのプログラムを受講する必要があったためとても苦労したことを覚えています。期末試験で課されたレポートでは、1 問解き終えるために半日かけていたこともあり、正直数学が向いていないのではないかと思うこともありました。それでも逃げずに乗り越えられたのは自分の目標が定まっていたこと、同級生や家族、財団などたくさん支えがあったからだと思います。これは勉強に限らず、どのような場面でも同じです。皆さんにも必ず支えになるものがあるはずですよ。そのことを忘れないで欲しいと思います。

次にアルバイトです。私は飲食、塾(2 社)、運送業、個人による海苔の製造など様々な業種を経験してきました。それぞれに思い出や学んだことがあります。今回は塾に関してのみ取り上げさせていただきます。私は教員志望ということもあり、一番力を入れていたと思います。特に苦労したことは教えることの難しさです。生徒の中には基礎すらままならない子、私よりも学力が高い子など様々です。実際、学力が高い子どもに教えることは容易だと思えます。なぜならば、その子が勝手に理解して飲み込んでくれるからです。教える立場として真価が問われるのは勉強を苦手とする生徒への指導です。初めはコミュニケーションの取り方、何がわからないかを理解してあげられない、どこまでさかのぼって復習すべきかなど多くの場面で苦労しました。この時に、できるとわかるは違うのだと感じ、より数学への理解を深めようと考えようになりました。それからは自分なりのスタンスを確立し、生徒に数学が楽しいと言ってもらえるところまで成長できました。彼ら自身の努力もあり、多くの生徒を国立大学へと見送ることが出来ました。教員になった今もこの経験は生きています。個別最適な教育を求められる現代で、個別指導の経験があることは自分の強みだと言えます。皆さんが社会に出るにあたって学び続ける姿勢は何よりも大切だと私は思います。

最後に遊びです。大学生は人生で一番、時間にゆとりがあります。マラソンやライブ、列島横断や海外旅行など今まで経験したことがないことをするチャンスです。私としては富士山登頂ができなかったことがとても心残りです…。後悔をしないためにも殻を破って自分自身をいろいろな面で成長させてください。特に、教職の目線から話させていただくと、様々な経験を生徒に話せることは、関係づくりや興味関心を引き出す点でとても効果的な材料だと思います。

きっと多くの出会いが皆さんを待っています。